

令和5年度 第3回千曲市地域公共交通活性化協議会 会議概要

期 日：令和5年12月20日（水）午前10時00分～午前11時30分

場 所：千曲市役所301会議室

出席者：委員出席 22名（2名欠席）、事務局他6名

3. 会議事項

(1) 令和5年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の一次評価について

(事務局)

資料に基づいて説明

(拍手多数により承認)

(2) 地域間幹線系統「屋代須坂線」運行計画の変更について

(高山委員)

資料に基づいて説明

- ・乗務員不足を背景に、元日及び1月21日からの日曜日を当面の間、全便運休とする

(拍手多数により承認)

4. 協議事項

(1) 千曲市地域公共交通計画策定について

(事務局)

- ・資料をご覧いただき、事務局までご意見等をお寄せください。

(2) 千曲市循環バス令和6年度運行体制について

(事務局)

概況について説明

- ・アルピコ交通（株）：乗務員不足を背景に、令和5年度をもって姨捨線、大田原線の運行を終了
- ・更埴観光タクシー（株）：令和6年度から姨捨線を運行
- ・(有)ワイズ・ホーク：令和6年度から大田原線を運行

(3) 令和5年度ダイヤ改正について

(事務局)

資料に基づいて説明

(辻野委員)

- ・利用者への影響という点で、利用者が少ないところを中心に見直したということだが、今まで乗っていたものがなくなるというところはしっかり周知していただきたい。一方、利便性自体は上がっていると思われるので、その点もしっかりアピールしていただきたい。
- ・Googleなどの経路検索で簡単にバスの路線情報を誰でも見られるようになっているので、データ整備を丁寧に対応していただきたい。

(事務局)

- ・おっしゃる通り、利用者の方がこれだけ改正があると戸惑うことも多いと思う。時刻表の配布以外にも分かりやすい資料を作成する等、周知に努めていきたい。またデータ整備について、今年度から千曲市内の循環バスも、インターネットで経路検索を行えるよう整備をしたので、継続して取り組んでいきたい。

(新井委員)

- ・定期路線のバスの便数をそれぞれ教えていただきたい。

(事務局)

- ・大循環線東回りは、平日11便、土曜日6便
大循環線西回りは、平日10便、土曜日6便
東部線は、現行と変わらず平日のみの運行で4便
姨捨線は、平日のみの運行で5便
大田原線は、平日7便、土曜日4便
更級戸倉線は、平日のみの運行で5便
五加戸倉線は、午前午後3便ずつの計6便で、冬期限定便の運行期間は計7便
上山田線は、平日のみの運行で6便
おばすて棚田温泉観光便は、午前午後2便ずつの計4便

(新井委員)

- ・変更となる地域においては告知をぜひお願いしたい。また、デマンドの動く時間と定期路線の動く時間が重なっている地域があるので、時刻の見直し等を行っていきつつ、高齢化率が高まっているこの千曲市内において、デマンドのバス停の増設も再度検討していただきたい。

(事務局)

- ・デマンドとバスの動く時間が重なっていることについて、事務局としても認識している。実際の利用状況、利用者の声を丁寧に聞きながらやっていきたい。デマンドバス停新設について、ご指摘の通り、特に実証運行のエリアは東部エリアと比べても停留所がまだ少ないというのは認識している。
- ・要望のあったところにはできるだけ新設するような形で動いているが、実証運行エリアはまだ利用が少ない状況なので、利便性を良くすること等も考えながら検討していきたい。

(新井委員)

- ・運賃の利用者負担について、デマンド運賃を無料にとまでは考えていないが、路線バスの利用客の状況等もオープンにさせていただきながら、無料券というものが今の行政事情も踏まえながら、継続していいのかどうか検証もしていかなければいけないのではないかと考えるので、ぜひ検討いただければと思う。

(4) 千曲市デマンド型乗合タクシー実証運行について

(事務局)

資料に基づいて説明

(新井委員)

- ・まだまだ告知がうまくいっていないという印象。実証運行がスタートして3ヶ月経っている中で、住民から利用方法等がわからないという声が聞こえてくる。定着までに時間はかかるかと思うが、利用者は徐々に増えているので定着に向けて引き続きご配慮いただきたい。

(新倉委員)

- デマンドの利用状況として、登録者は3桁ほど行っているが、実際に利用している方はかなり限定的だと思う。なかなか定着していない中で、どのように利用するか具体例としてモデルケースを示してはどうか。
- 利用状況について、大循環線東回りと西回りで、便によって大きな差があるが、なぜこのような差が出ているのか。

(事務局)

- 具体的なモデルケースを示すことは必要かと思っている。良い使い方がイメージできるようなものが必要だと思っているので、今後検討していきたい。利用状況について、大きな差がある部分については、9月25日から大循環線に合流した便の数字となる。

以上